

千葉の園芸

発行所 千葉市中央区市場町1-1
公益社団法人千葉県園芸協会
連絡先 043(223)3005
発行日 毎月1日
令和4年11月号

流通情報



青果物の販売促進の取組について(その1)

全農千葉県本部 園芸部 園芸販売課
東京園芸販売センター長 長妻 誠

新型コロナウイルスは令和4年に入っても収束が見られず、依然として、スーパー・量販店の店頭では試食販売を伴う販売促進は制限されている状況が続いています。このような中、新型コロナウイルス感染防止に留意しつつ「千葉なし味自慢コンテスト」を、スーパー・量販店でフェアを開催しました。また企業とコラボし、千葉県の農産物を使用した特別メニューフェアと物販も開催しました。

1 千葉県産梨のイベント・販売促進の実施

9月3日(土)と4日(日)の両日にわたり、千葉県と千葉県園芸協会との協賛で千葉県産梨の販売促進を県内や東京近郊のスーパー・量販店で実施するとともに、イオン津田沼店では「千葉なし味自慢コンテスト」を開催しました。

コンテストでは、3日に関係者を参集しての厳正な審査が行われ、最優秀賞に相当する「農林水産大臣賞」をはじめとする33組の受賞者が決定しました。4日には受賞した梨が店内にお披露目され、イベント前から多くのお客様が受賞した梨を見るため足を止めていました。

10時より開始されたイベントでは、果樹連会長、千葉県農林水産部生産流通戦略担当部長、イオン津田沼店店長の3者が挨拶に立ち、力強く千葉の梨をPRされました。また事前に抽選で選ばれた30名のお客様が参加し「梨のミニ講座」が開かれ、梨の歴史や生産状況、品種などについて学習し、梨を使ったレシピも紹介されました。午後からはコンテストで受賞した梨や雹害を受けた梨の販売も行われ、早い時間から長蛇の列ができるなど、多くのお客様が買い求められ盛況な即売会となりました。



また、県内や東京近郊のスーパー・量販店では梨の販売促進を実施しました。マネキンさんが「千葉県は豊水が旬を迎えています。美味しい梨です。」とお客様にアピールしていました。売れ行きも非常に良く、一部の棚が空くような場面も見受けられました。土・日曜の開催でお客様が多く詰めかける中、店舗によってはお客様の目につきやすい店の入り口で物販を行うなど、千葉県産の梨を効果的にPR出来た販売促進となりました。

2 企業とコラボし千葉県産農産物をアピール

9月15日(木)には千葉県ならびに東京青果(株)と協力し、(株)NEC本社の社員食堂へ千葉県産農産物を提供しPRを実施しました。

本フェアは旬の千葉県産農産物を使ったメニューを提供し、社員の方々に食べてもらうことを通じ、千葉県産農産物の更なる認知度アップと消費拡大に繋げることを目的としています。今回は旬である梨(豊水とあきづき)と里芋をメイン食材に用いて「具たくさん豚汁定食」とデザートとして梨を添えて社員に振舞われました。また、今回は食堂に隣接している物販コーナーで梨、粒すけ、落花生を販売し、千葉県フェアを盛り上げて頂きました。



本フェアは昨年度に新たな取組として実施し、今年で2年目を迎えます。(株)NEC社員から高い評価を頂いており、昨年は2回の開催でしたが、今年は計4回の開催を予定しています。また、本社ビルの社員食堂では昨年のフェアをきっかけに、粒すけを継続して使用して頂いています。

今後も千葉県産農産物のPRの為に本フェアを継続して取り組んでいきたいと思っております。

3 おわりに

J A全農ちはば、今後もJ A、市場、千葉県、千葉県園芸協会をはじめとした関係機関と連携し、色々な販促活動を展開し、千葉県産農産物の更なる認知度向上とPRにつながる取組を進めていきます。引き続き、産地の皆様の御協力と御理解をお願い致します。



なしの降ひょう被害に対する果樹連の取組について

公益社団法人千葉県園芸協会

産地振興部 副主幹 角田 孝史

千葉県果樹園芸組合連合会（略称：果樹連）では、令和4年6月3日に東葛飾地域を中心に降ったひょうにより被害を受けたなし産地を支援するため、なしの生産販売の支援活動に取り組みましたので、その活動内容を紹介します。

1 はじめに

6月3日、なしの主産地である県北西部の東葛飾地域で、降ひょうにより、なしの果実や葉に傷がつく被害が発生しました。中でも特に降ひょうが激しかった市川市、鎌ヶ谷市などの一部地区では、多くの果実に傷がつき、通常の出荷が見込めない事態となりました。

2 果樹連の対応

果樹連では、6月6日に、会員のなし組合に対し緊急に被害調査を行い、状況把握に努めました。また、被害を受けたなし生産者を支援するため、三役会を開催し、千葉県園芸協会、県、全農ちばと連携しながら、ひょう害果の販売支援などに取り組むことを決定しました。

6月7日には、被害を受けたなし組合に、病害防除などに係る県からの技術対策資料「ナシへのひょう害に対する事後対策」を周知しました。

その後、千葉県園芸協会、県、全農ちばと支援策の協議を重ね、6月29日に、被害を受けた産地を巡回し、なし組合（JA）に対し、オール千葉体制の下に、①協力市場との連携による量販店に対するひょう害果等の販売提案、②異業種からの協力申し出の情報提供、③マスコミへの産地の取組や出荷開始時期の情報提供、④県庁生協や千葉なし味自慢コンテストでのひょう害果の販売促進等の支援策を提案しました。その結果、なし組合において、協力市場との連携による量販店での販売が実施されました。

3 ひょう害果支援の活動

(1) 県庁生協と連携した販売促進活動

本年度から、県庁中庁舎地下において、千葉県園芸協会と県庁生協が連携して青果物の消費宣伝会を実施しています。その一環として、今回被害を受けたなし産地の支援のため、ひょう害果の販売促進活動を行いました。7月28日に市川市内にて関係産地と協議し、対象産地、実施時期、数量、販売までの流れを確認し合い、8月に「幸水」で2回、9月に「豊水」で1回、計3回の取組を行いました。

(2) 千葉なし味自慢コンテストでの販売促進活動

被害を受けたなし産地の支援のため、9月3日～4日に開催された千葉なし味自慢コンテストの会場（イオン津田沼店）にて、特設コーナーを設置し、被害状況のパネル展示とともにひょう害果の販売促進を行いました。



千葉なし味自慢コンテストでのひょう害果販売支援

4 活動に取り組んで

産地（JA）からは「農家の皆さんが努力して仕上げたなしなので、支援はありがたい。」との声がありました。

また、来店者からは、「ひょうの傷は表面だけで気にならない。」「前回買っておいしかったのでまた来た。」など生産者を応援する多くの声がありました。販売されたなしは、甘み・食感とも良好で、改めて県産なしに対する高い評価を確認できました。果樹連では、本年度の活動を今後の取組につなげてまいります。



県庁生協でのひょう害果販売支援

野菜ニュース



ナス・キュウリ選果施設の整備について

J A山武郡市グリーンプラザ第一集出荷センター
所長 中村克己

J A山武郡市第一集出荷センターでは、老朽化していた選果施設について、令和3年度に国庫補助事業「産地生産基盤パワーアップ事業」を活用することで新たなキュウリ・ナス併用型の選果施設を整備しました。

この整備により、引き続き、安定した品質のキュウリ、ナスを消費者にお届けするとともに、利用者の拡大を推進することで産地の維持・発展を図っていきます。

1 はじめに

J A山武郡市はキュウリ・ナス選果施設の老朽化に対応し、労力軽減を図り良品生産を保つため、九十九里町の同J A第一集出荷センター内に新たなキュウリ・ナス併用型の選果施設を建設しました。新施設は3月に竣工を迎え、キュウリやナスが越冬作から春作に作型が切り替わるのと併せて、本格的な稼働を始めています。

2 選果施設の更新

以前から既存の選果施設の老朽化が問題視されており、J A山武郡市の中期経営計画及び農業振興計画の重点実施事項として検討し、国庫補助事業「産地生産基盤パワーアップ事業」を活用して選果施設の更新を行いました。

3 品質の維持

最新の選別カメラを搭載した選果機能の向上により、生産者から収穫直後の鮮度良好なキュウリとナスを出荷場へ持ち込む既存の流れを変えることなく、正確で決められた大きさに選別が可能となり、安定した品質で市場や仲卸業者を経由し、消費者にお届けできる体制が確保できました。また、定期的に部会役員による品質及び選別状況の確認が行われております。

4 生産の維持と品質向上

生産者数は現状キュウリが50人、ナスが32人。両品目とも選果施設の更新工事を行っている間も

出荷に取り組んでおり、選果施設の竣工を心待ちにしていました。

選果能力が向上した選果施設を十二分に活用するために、生産物の品質や出荷量の向上が求められています。今後は「輝け！ちばの園芸」次世代産地整備支援事業等の補助事業を活用することで栽培管理に係る先進技術の導入を図っていきます。



新選果施設 作業風景

5 おわりに

令和4年度は越冬、春、夏秋などの全作型合計でキュウリ1,447トン、ナス652トンを生産目標としています。今後は新施設の稼働に合わせて、利用者の拡大についても推進し、青果物販売額の増加を目指しています。

野菜ニュース



JAちばみどり銚子トマト選果機稼働

JAちばみどり営農センター銚子
営農振興課 課長代理 河野 聡

JAちばみどりが令和2年度「産地生産基盤パワーアップ事業」で導入した、銚子トマト選果機が令和4年3月より本稼働しました。

1 はじめに

銚子トマトを生産する「銚子施設園芸組合」は昭和48年に組織され、抑制栽培が開始されました。平成8年からは無加温半促成栽培が開始され、平成17年には旭市飯岡地区の生産者も加入し越冬栽培も加わりました、現在は98名の生産者で構成されており、複数の作型を栽培することでほぼ周年での出荷を行っています。

2 新型トマト選果機の導入

選果機の利用は生産者にとって栽培に集中することができるため、品質の高いトマトを消費者へ届けられます。しかし前身の選果機は導入後15年を経過しており、生産性の低下が否めませんでした。消費者へ安全・安心で新鮮なトマトを届けるには新型の選果機の導入が必須でした。



新型トマト選果機を活用し
生産性の向上を図ります

JAちばみどりでは、「銚子施設園芸組合」で実施したアンケート結果を踏まえ、令和2年度「産地生産基盤パワーアップ事業」の申請を行い、令和4年3月14日に竣工式を執り行いました。



令和4年3月14日に行われた竣工式の様子

3 今後の展望

選果機の利用による生産性の向上と「産地生産基盤パワーアップ事業」の取組目標である契約取引拡大のため市場買付販売を積極的に行います。また、産地としての優位性を発揮し生産者所得の増大を図ります。



品質の高いトマトを消費者へ



土壌くん蒸剤を用いた低温期におけるネコブセンチュウ対策 - 残さの腐熟促進処理により効果的なくん蒸処理を -

千葉県農林総合研究センター
病理昆虫研究室 研究員 梶浦 真衣

ネコブセンチュウは連作障害の主要因として長年問題となっており、D-D 剤など土壌くん蒸（土壌消毒）が重要な防除手段となっています。しかし、土壌くん蒸は、低温条件下では夏期に比べて十分な効果が得られない場合があります。今回は、これらの要因と解決方法について御紹介します。

1 土壌くん蒸剤の効果を低下させる2つの要因

低温期において、土壌くん蒸の効果を低下させる一つ目の要因は、線虫の卵の状態が存在する割合が高いことです。ネコブセンチュウは土壌中では、卵または二期幼虫の状態が存在しています。特に低温期は卵の孵化が起こりにくく、卵の状態が存在する割合が増すと考えられています。D-D 剤の両ステージに対する温度別の効果を室内試験で調査した結果、低温条件下では殺線虫効果が低下しました。特に卵に対する影響は顕著で、殺卵効果を得るには15℃以上の地温が必要なが分かりました。

土壌くん蒸の効果を低下させるもう一つの要因が根の残さです。土壌くん蒸前に土を掘ると、前作の根が残っている様子が多くのほ場で見られます。このような根の残さの中には、ネコブセンチュウが潜んでいます。根の残さの中までは土壌くん蒸剤が届きにくいことから、あらかじめ根の残さを十分に腐らせることで、くん蒸剤による高い防除効果を得ることができます。腐熟は地温が高いほど促進されますが、最低でも15℃以上が必要であり、これは、卵に対する薬効の確保に必要な温度と同じです。一方、地温の条件は満たしていても、土が過度に乾燥していると効果は限定的となるので注意が必要です。（写真）

2 ハウスにおける処理の実践と効果

抑制トマト栽培後のパイプハウスにて、土壌くん蒸処理の試験を実施しました。根の残さの腐熟促進と地温確保のため、土壌くん蒸の1か月前の令和元年12月上旬にはほ場を耕耘・灌水・ポリ被覆しました。処理中の35日間は

平均地温 16.0℃が確保され、卵の孵化と根の残さの腐熟を促進させることができました。続いて1月上旬にD-D 剤を処理しましたが、腐熟を促進させたほ場では、くん蒸期間 23 日間の前半まで地温上昇効果が維持されました（図）。腐熟を行わなかったハウスでは、くん蒸後に採取した根の残さにセンチュウが生存していましたが、腐熟処理したハウスでは、地下 40cm の深さの残さからも生存は認められませんでした。

3 低温期土壌くん蒸処理のポイント

低温期の D-D 剤による土壌くん蒸では、土壌中のネコブセンチュウの卵と根の残さが効果を押し下げる原因になっていましたが、栽培後、耕耘・灌水・ポリ被覆を行い、土壌水分と地温を確保することで、卵の孵化や根の残さの腐熟が促進され、その後に行う土壌くん蒸の効果を高めることができました。この技術は低温期に実施する土壌くん蒸剤処理の指針として、トマト以外でも適用可能と考えられます。



写真 ネコブセンチュウに加害されたトマトの根

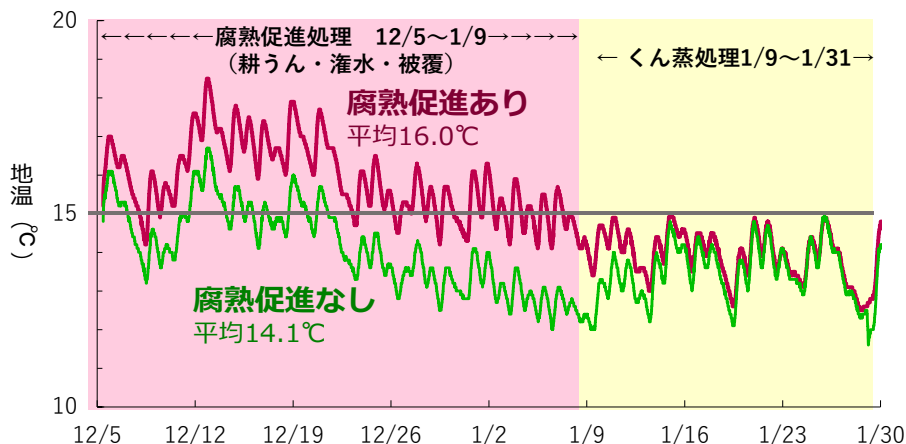


図 腐熟促進・土壌くん蒸期間中の深さ 20cm 地温の推移

注1) 腐熟促進あり区：令和元年12月5日に耕耘と5 L/m²の灌水をした後、0.1 mm 厚ポリフィルムで令和2年1月9日まで被覆。
 2) D-D 剤処理：腐熟促進あり区、なし区ともに、1月9日に2mL/穴処理後、1月31日まで腐熟に用いたポリフィルムを用いて被覆。

千葉県立農業大学校 令和5年度一般入学生の募集について

千葉県立農業大学校

農業経営者、指導者を目指す、皆さんのチャレンジをお持ちしています！

募集人員 農学科80名、研究科20名
(推薦入学含む)

受験資格

農学科 高等学校を卒業又は
令和5年3月卒見込みの者

研究科 農業大学校の卒業生又は、短期大学の農業に
関する正規の課程を修めて卒業した者
(令和5年3月卒業見込みの者を含む)

	A日程	B日程
出願期間	令和4年 12月2日(金)～ 12月15日(木)	令和5年 1月20日(金)～ 2月2日(木)
試験日	令和5年 1月6日(金)	令和5年 2月14日(火)
合格発表	令和5年 1月24日(火)	令和5年 3月1日(水)

試験場所 千葉県立農業大学校東金校
〒283-0001 東金市家之子1059
TEL：0475-52-5121

試験科目 筆記試験及び面接試験
農学科 必須科目：国語総合(古文及び漢文を除く)
選択科目：農業と環境、生物基礎、化学基礎の
3科目のうちから1科目を選択する。

研究科 作物学、園芸学、畜産学及び農業経営学の
4科目のうちから2科目を選択する。

問合せ先・資料請求先
千葉県立農業大学校東金校 試験事務局
TEL：0475-52-5121
FAX：0475-54-0630

<http://www.pref.chiba.lg.jp/noudai/index.html>



twitter



facebook

※本校での学修の様子や学生生活に関する情報を発信しています。

「ちばまるしえキャンペーン」開催

千葉県農林水産部流通販売課

千葉県は、都市住民が農山漁村の魅力に直接触れ、農林水産業への理解を深める重要な交流・販売拠点となる農林水産物直売所の店舗数が全国有数となっています。

これまで県では、県産農林水産物の出回りが多くなる秋冬季を中心に、直売所の認知度向上と集客増加を目的とした「ちばの直売所フェア」を15回開催してきました。今年度からは新規の顧客開拓や県内周遊を促すため、都市住民との交流をイメージした「ちばまるしえキャンペーン」に名称を改め、対象施設にいちご狩り等の農林漁業体験施設、農泊施設を加えて開催します。

キャンペーン内容としては、対象施設を巡り、応募すると県産農林水産物や対象施設のお薦め商品等が当たります。応募方法は、応募ハガキ又はWEBでのレシートの添付となります。

特設サイトでは応募フォームのほか、各地域やカテゴリーごとの施設紹介や、賞品紹介をしていますので、是非御覧ください。たくさんの応募をお待ちしております。

引き続きキャンペーン参加施設の申込みも受け付けております。参加条件は簡単で、施設情報の提供のみ(費用は発生しません)。また、レシートを発行していただく必要がありますが、普段は発行されていない場合も、キャンペーン用に手書きの領収書発行等の対応をいただける場合には参加可能です。参加施設にはのぼりやポスター等を送付いたします。より多くの施設を特設サイト等でPRできればと思いますので、対象施設の方はキャンペーンへの参加も御検討ください。

【期 間】

令和4年11月5日(土)～令和5年2月26日(日)

【問合せ先】

千葉県農林水産部流通販売課
電話043-223-2963

【ホームページ】

<https://www.pref.chiba.lg.jp/ryuhan/chokubai/chiba-marche2022.html>

